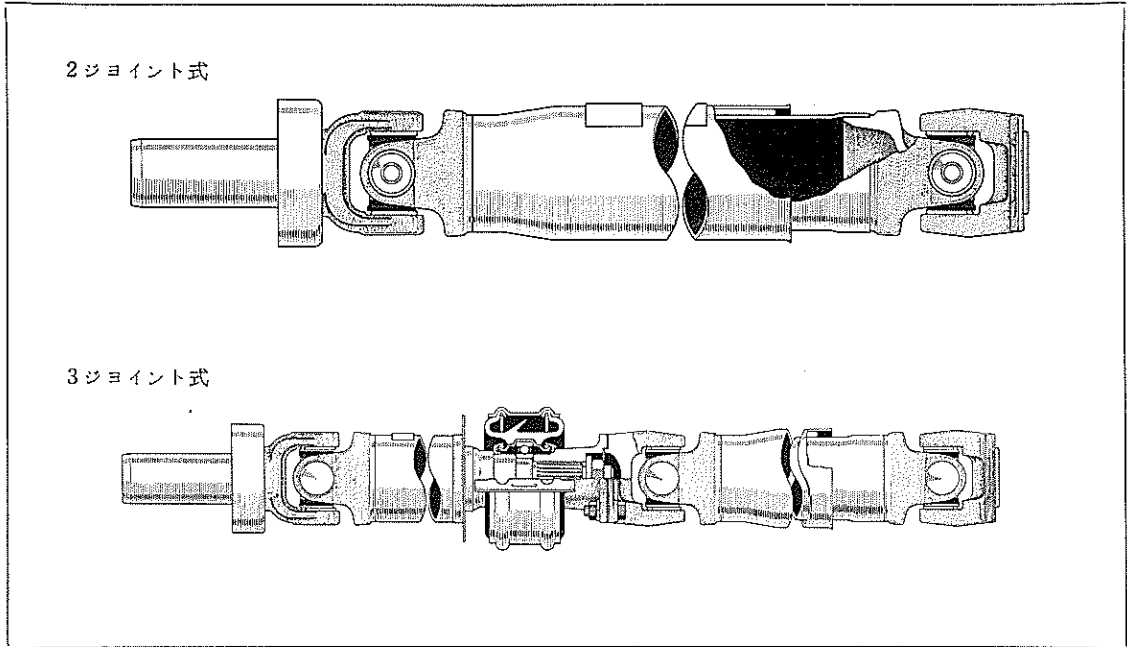


プロペラ シャフト リヤ アクスル

概 説	10—2
仕 様	10—2
プロペラ シャフト	10—3
リヤ アクスル シャフト	10—5
デифアレンシャル	10—7

10

概 説



第10-1図 プロペラ シャフト構成図

S1076 S1077

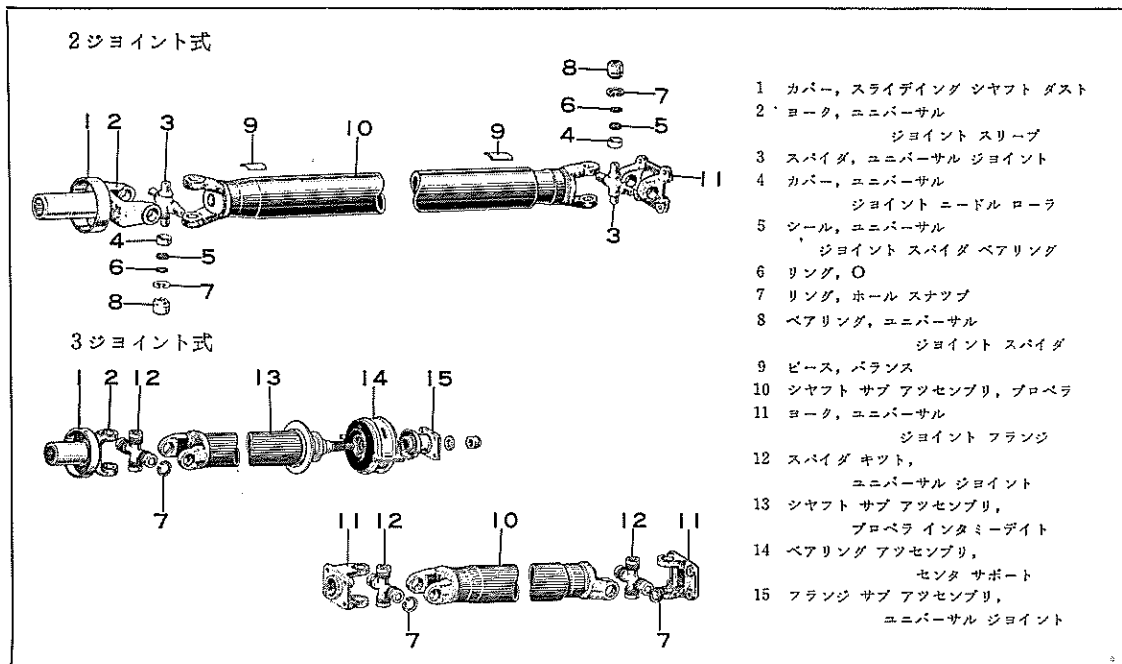
仕 様

第10-1表 プロペラ シャフト, リヤ アクスル仕様

プロペラ シャフト	車両型式	R X10, 12-D系	R X12-N系 R X20, 22系	MX系	R X16V, 26系	R X28系	
	長さ×外径×内径 (mm)	1227×75×71.8	667×75×71.8	650×75×71.8	1210×75×71.8		
	(インタミード シャフト)	—	560×65×61.8		—		
	自在接手型式	十 字					
リヤ アクスル型式	半 浮 動 式						
減 速 機	歯 車 型 式	ハ イ ポ イ ド ギ ャ					
	歯 数	車両型式	R X10, 20系	R X12, 22系	MX系	R X16V, 26系	R X28系
		ドライブ ピニオン	9	10	9	8	10
		リングギヤ	37	37	37	35	39
	減 速 比	4.111	3.700	4.111	4.375	3.900	
差 動 機	歯 数	デフピニオン	10		10		
		デフサイド ギヤ	15		16		
	外箱型式	バ ン ジ ョ ウ					
	歯車型式	か さ 歯 車					

プロペラ シャフト

構成部品



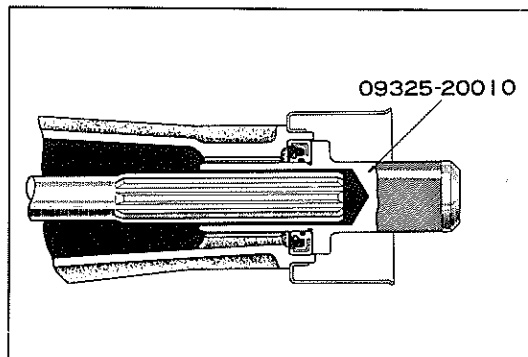
第10-2図 プロペラ シャフト構成部品

S1259 S1260

10

取りはずし

- 1 プロペラ シャフトのユニバーサル ジョイント フランジ ヨークとデイファレンシャルのドライブ ピニオン コンパニオン フランジを切り離す。
- 2 プロペラ シャフトを取りはずし, トランス ミツシヨンのエクステンション ハウジング 後部にS S T〔09325-20010〕をそう入しておく。



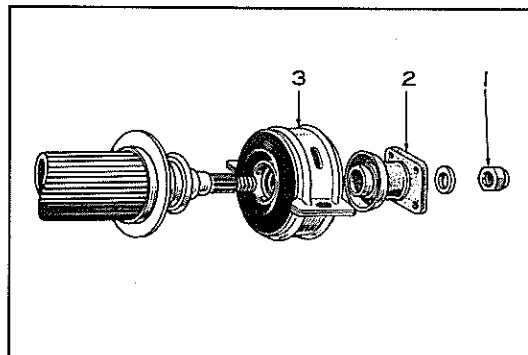
第10-3図 トランスミツシヨン オイル プラグ G3943

センタ ベアリング取りはずし

- 1 インタミードイト シャフトとプロペラ シャフトを切り離す。
- 2 ナツト(1)を取りはずして, フランジ ヨーク(2)とセンタ ベアリング(3)を取りはずす。

注

センタ ベアリングは分解しないこと。不良の場合はアッセンブリで交換する。



第10-4図 センタ ベアリング取りはずし

G9103

ユニバーサル ジョイント分解, 点検,
組み付け

各車共通編 第10章「プロペラ シャフト」の項参照。

センタ ベアリング取り付け

- 1 インタミードイト シャフトにセンタ ベアリング アッセンブリを組み付ける。

注

センタ ベアリングの方向性はない。

- 2 ジョイント フランジの合わせマークを合わせて組み付け, プレート ワツシャを入れナットを2度締めする。

締め付けトルク 初回 1700~2000kg-cm
2回目 250~350kg-cm

注

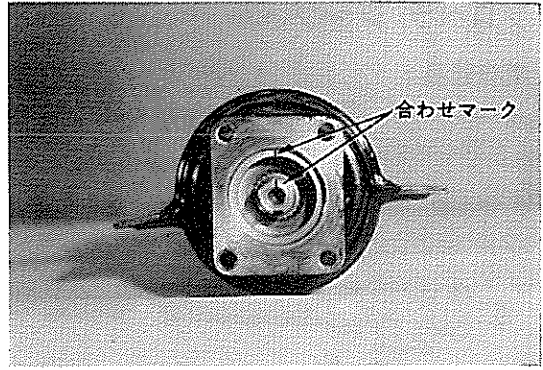
- 1 ナットは必ず新品を使用すること。
- 2 締め付けは最初規定トルクで締め, 一度ゆるめ再び規定トルクで締め付ける。
- 3 締め付け後ナットをかしめること。

- 3 インタミードイト シャフトとプロペラ シャフトを組み付ける。

締め付けトルク 200~300kg-cm

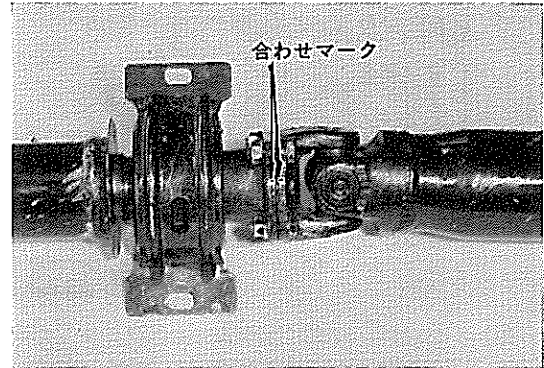
注

- 1 フランジ ヨークの合わせマークを合わせること。



第10-5図 ジョイント フランジ組み付け

B9839



第10-6図 プロペラ シャフト組み付け

B9840

- 2 取り付けボルトは規定のボルトを使用して確実に締め付けること。

取り付け

プロペラ シャフト アッセンブリを取り付ける。

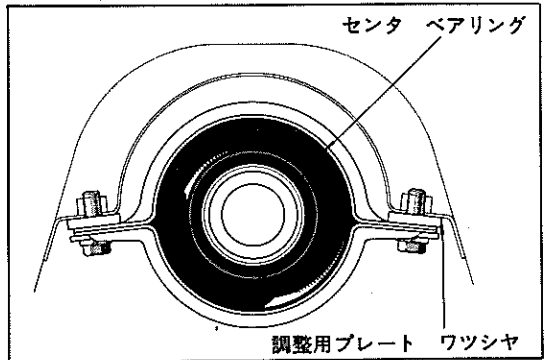
締め付けトルク 200~300kg-cm

注

- 1 ユニバーサル ジョイント スリーブ ヨーク のトランスミッションそう入部には MP グリースを充分塗布し, オイル シール, ダスト シール等を傷付けないようにする。
- 2 プロペラ シャフト取り付けボルトは, 規定のボルトを使用して確実に締め付ける。
- 3 ジョイント式プロペラ シャフトの取り付けは, 空車状態でセンタ ベアリング ハウジング切り欠き部の中心からセンタ ベアリングの中心を0.5mm後方へよせた位置でセンタ ベアリング ハウジングを締め付ける。

締め付けトルク 200~300kg-cm

- 4 センタ ベアリングの上下方向の調整
(1) プレート ワツシャをセンタ ベアリング



第10-7図 センタ ベアリング高さ調整

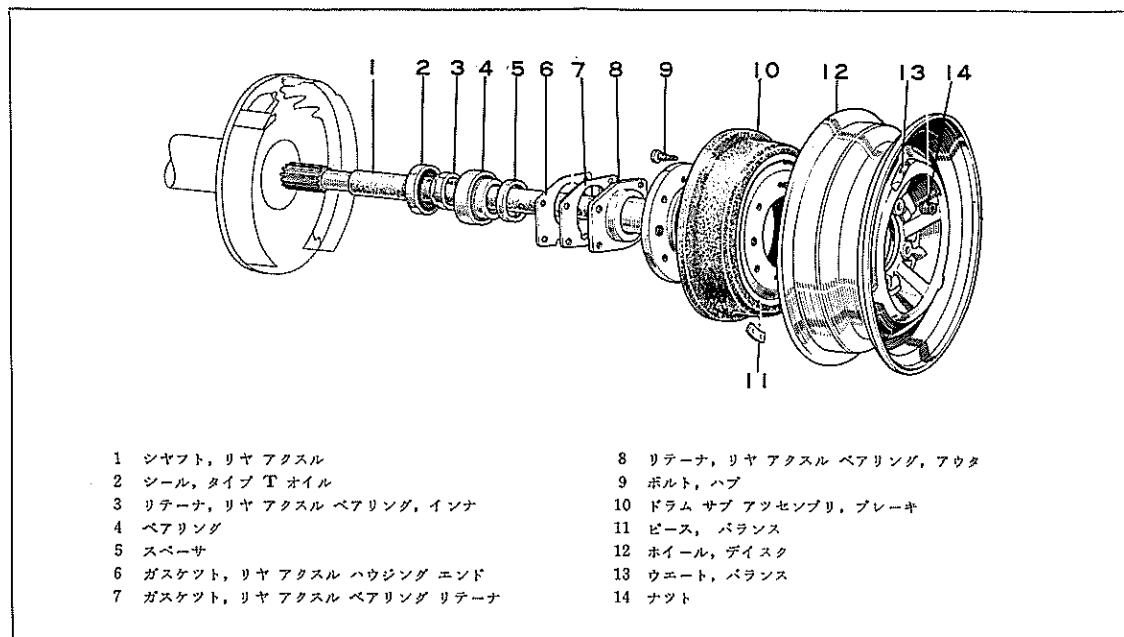
G8677

ブラケットとボデー側ブラケットの間に使用して行ない, 標準使用枚数は1枚である。

- (2) ワツシャは片側に0枚ないし1枚の範囲で調整し, 左右同一枚数のワツシャを使用する。

リヤ アクスル シャフト

構成部品



第10-8図 リヤ アクスル シャフト構成部品

51261

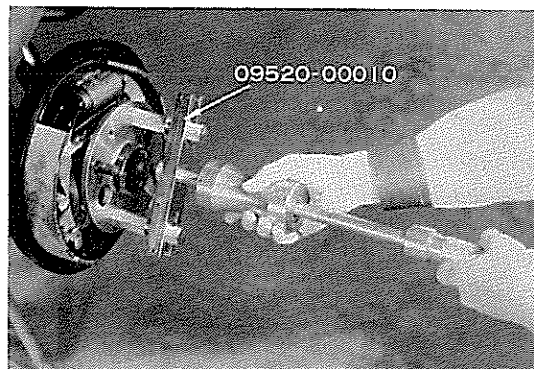
10

取りはずし

- 1 ブレーキ ドラムを取り, バツキング プレート取り付けナットをシャフト フランジ部のサービス ホールを利用して取りはずす。
- 2 SST (09520-00010) を使用してリヤ アクスル シャフトを取りはずす。

注

シャフトを抜き出すとき オイル シールに傷を付けないようにする。

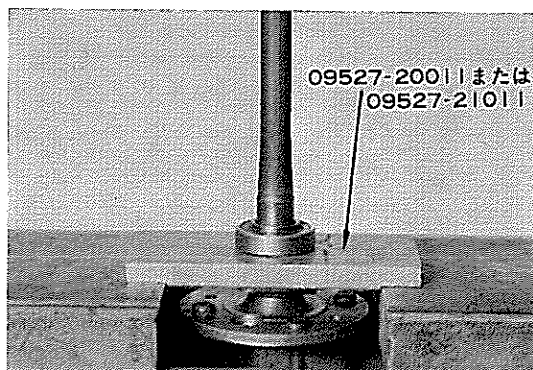


第10-9図 リヤ アクスル シャフト取りはずし

B9844

分 解

- 1 リヤ アクスル ベアリング インナ リテーナの一端をグラインダで削り, ハンマ等でたたいて取りはずす。
- 2 SSTとプレスを使用してベアリングを取りはずす。
 R X10, 12, 20, 22系…… (09527-20011)
 MX系, R X16 V, 26, 28系……
 (09527-21011)
- 3 リヤ アクスル シャフト から ハブ ボルトを
取りはずす。



第10-10図 ベアリング取りはずし

V3472

- 4 S S T [09308-00010] を使用してリヤ アクスルハウジングからオイル シールを取りはずす。

注

オイル シールはハウジングに組み付いた状態で点検する。

組み付け

- 1 S S Tを使用してリヤ アクスルハウジングにタイプ T オイル シールを組み付ける。
RX10, 12, 20, 22系…… [09505-20010]
MX系, RX16V, 26, 28系……
[09517-30010]

注

オイル シールのシャフトとの接触面にキヤツスル MP グリースを充分塗布すること。

- 2 リヤ アクスル シャフトにプレス等を使用してハブ ボルトを組み付ける。
- 3 リヤ アクスル シャフトにベアリングアウト リテーナ, スペーサ, ベアリングを入れ S S Tとプレスを使用して圧入する。
RX10, 12, 20, 22系…… [09515-20010]
MX系, RX16V, 26, 28系……
[09515-21010]

- 4 ベアリング インナ リテーナを 140~160°C に加熱してリヤ アクスル シャフト に組み付ける。

注

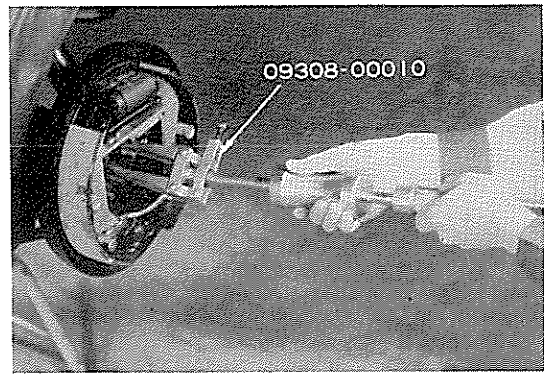
- 1 リテーナが150°Cになると, 表面がわずかに黄色を帯びかけるのでこれ以上加熱しないようにする。
- 2 リヤ アクスル シャフトおよびリテーナにはオイルやグリースを付着させないこと。

- 5 リヤ アクスル シャフトをベアリング リテーナ ガスケット, バツキング プレート エンド ガスケットを介してリヤ アクスルハウジングに組み付ける。

締め付けトルク 600~740kg-cm

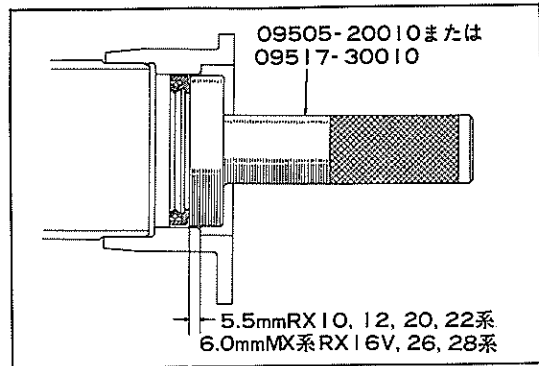
注

ガスケットの両面にシール パツキン No.5 を塗布すること。



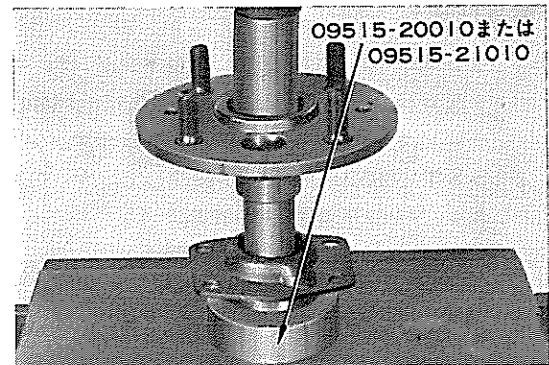
第10-11図 オイル シール 取りはずし

B9845



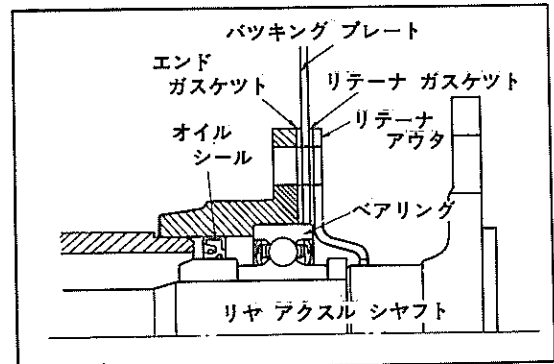
第10-12図 オイル シール組み付け

G9322



第10-13図 ベアリング組み付け

V3475

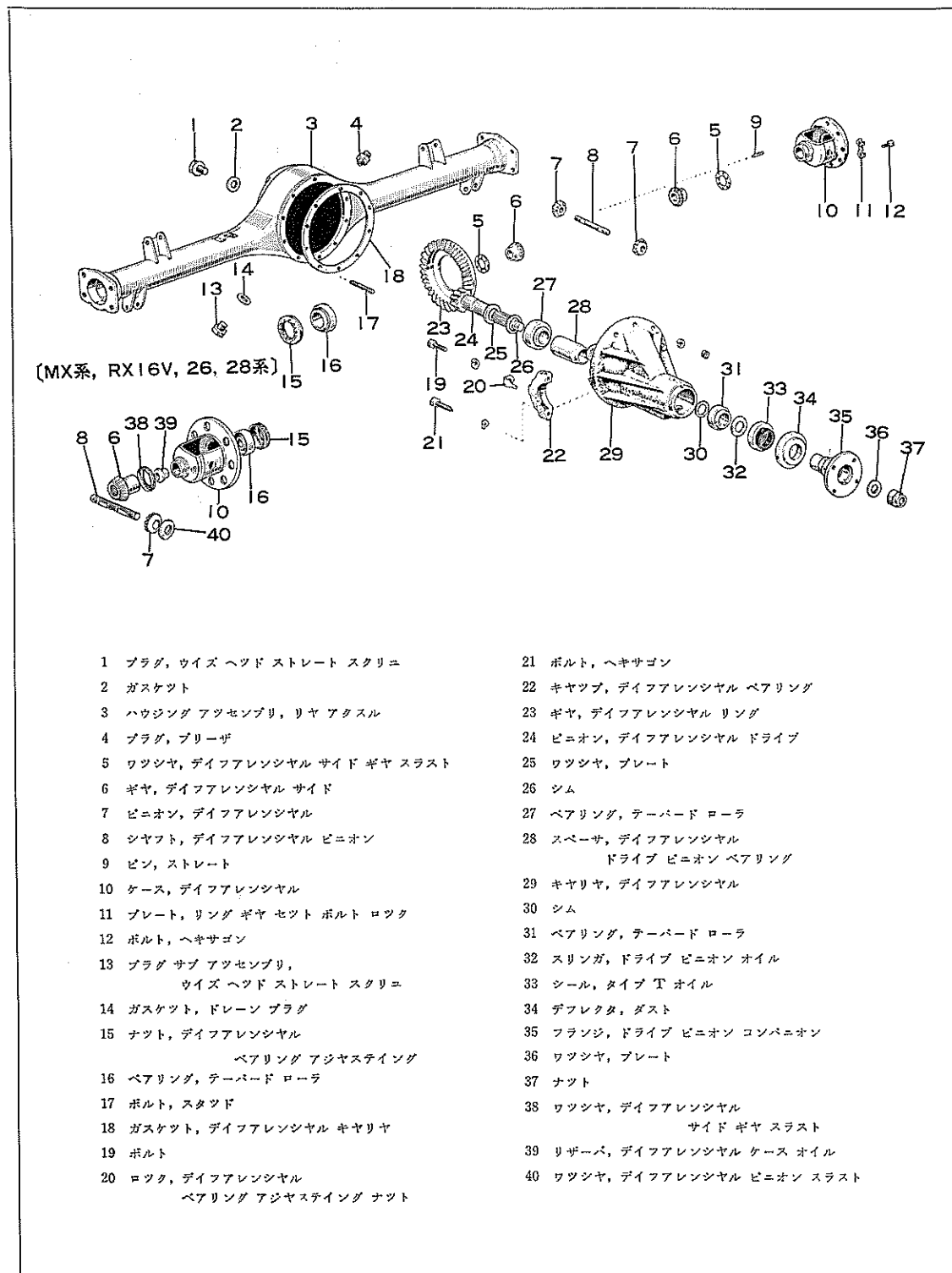


第10-14図 リヤ アクスル シャフト組み付け

G9323

デифアレシヤル

構成部品



10

第10-15図 デイファレンシヤル, リヤ アクスル ハウジング構成部品

S1262

取りはずし

- 1 アクスルハウジング内のオイルを抜く。
- 2 SST〔09520-00010〕を使用してオイルシールを傷つけないようにリヤアクスルシャフトを取りはずす。(P10-5参照)

注

ブレーキドラム、リヤアクスルシャフトは左右の別を明確にする。

- 3 プロペラシャフトを切り離す。
- 4 デイフアレンシヤルキャリヤを取りはずす。

分解

- 1 デイフアレンシヤルキャリヤをワークスタンドに取り付ける。
- 2 ベアリングキャップおよびキャリヤに合わせマークを打ち、左右のベアリングキャップを混同しないようにする。
- 3 ボルト(1)、ロックプレート(2)、ボルト(3)、ベアリングキャップ(4)およびアジャスタイングナット(5)を取りはずす。
- 4 デイフアレンシヤルケースをベアリングキャップとともに取りはずす。

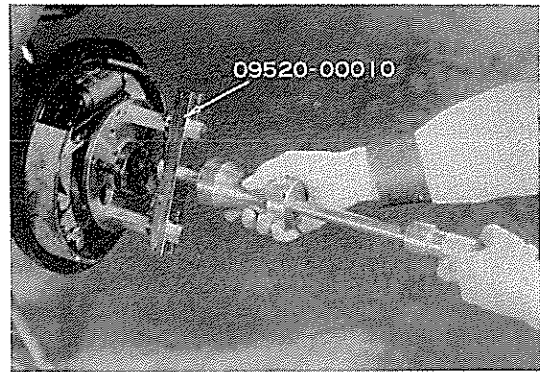
注

取りはずし後、左右のベアリングキャップを混同しないようにすること。

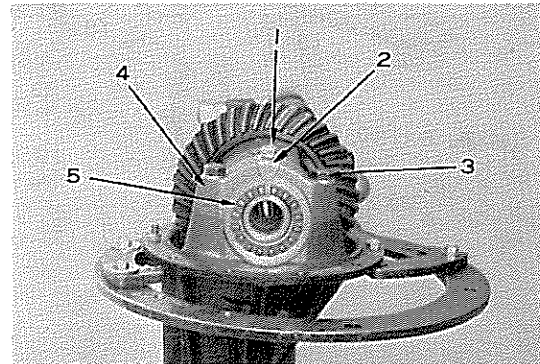
- 5 ナットのかしめをとくとき、SST〔09330-00020〕を使用してフランジを保持しながら、ナットを取りはずす。
- 6 SST〔09557-22010〕を使用してコンパニオンフランジを取りはずす。
 - (1) SST先端のネジ部をドライブピニオンのネジ部に締め込んでからSSTのプレート部をフランジに4本のボルトで固定する。
 - (2) SSTのボルト(1)を固定し、ナット部(2)をゆるめてフランジを取りはずす。

注

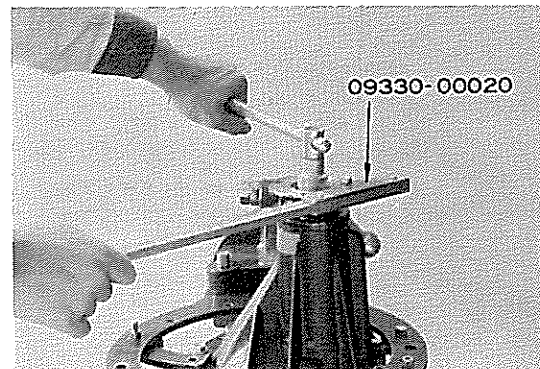
SSTはフランジから取りはずさない。



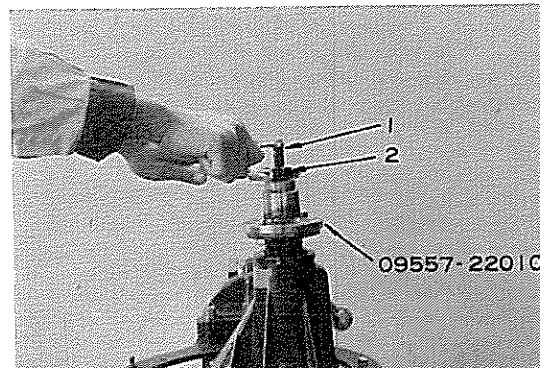
第10-16図 リヤアクスルシャフト取りはずし B9844



第10-17図 アジャスタイングナット取りはずし B9924

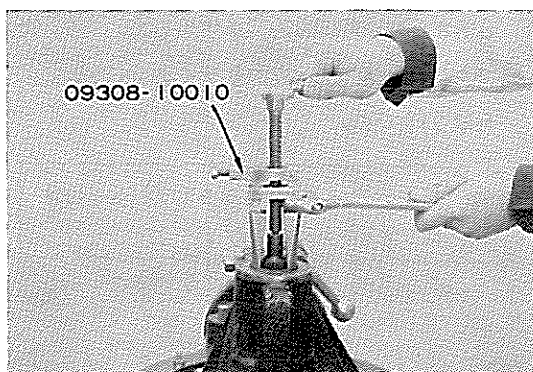


第10-18図 ナット取りはずし B9841



第10-19図 コンパニオンフランジ取りはずし B9842

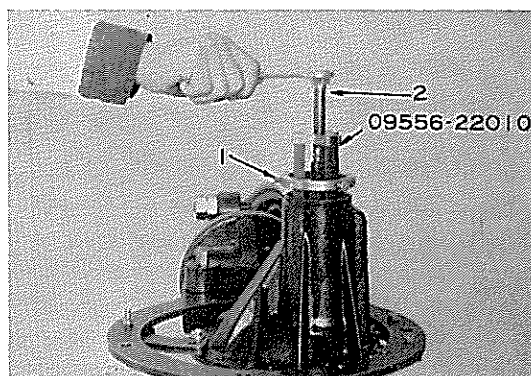
- 7 SST (09308-10010) を使用して、オイルシールを取りはずす。
- 8 オイル スリングを取りはずす。



第10-20図 オイル シール取りはずし

B8737

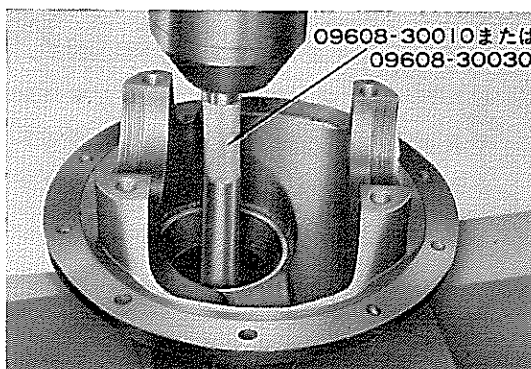
- 9 SST (09556-22010) を使用して、フロントベアリングを取りはずす。
- (1) SSTのツメをベアリング インナレースの端面に掛け、3本のボルト(1)を平均に締め込む。
- (2) SST中心のボルト(2)を締め込み、ベアリングを取りはずす。
- 10 ドライブ ピニオン および スパーサをキャリヤから取り出す。



第10-21図 フロント ベアリング取りはずし

B9925

- 11 SST (09608-30010) を使用して、フロントベアリング カップを取りはずす。
- 12 SSTを使用して、リヤベアリング カップを取りはずす。
- RX10, 12, 20, 22系……〔09608-30030〕
- MX系, RX16V, 26, 28系……〔09608-30010〕



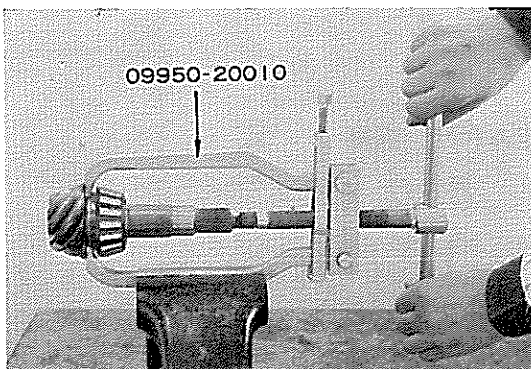
第10-22図 ベアリング カップ取りはずし

V3440

- 13 SST (09950-20010) を使用して、ドライブピニオン リヤベアリングを取りはずす。

注

取りはずしのときは、ピニオン突き出し量調整用プレート ワツシャを变形させないこと。



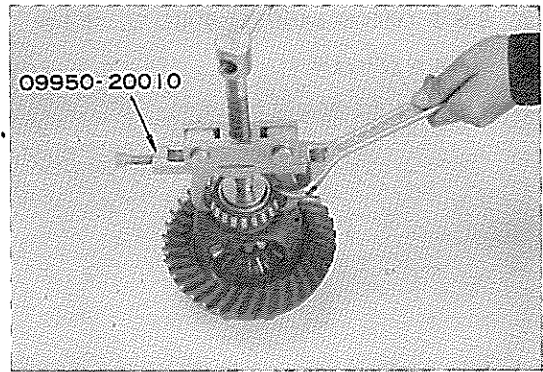
第10-23図 リヤ ベアリング取りはずし

B8739

- 14 SST〔09950-20010〕を使用して、ディファレンシャル ケースからサイド ベアリング を取りはずす。

注

ディファレンシャル ケースに SST のツメを掛けるための切り欠きがある。



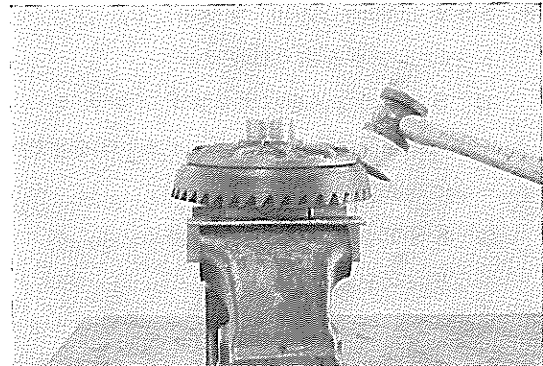
第10-24図 サイド ベアリング取りはずし

B8740

- 15 リング ギヤ セット ボルトのロック プレートのツメを延ばしてボルトを取り、リング ギヤ外周を銅ハンマ等で軽くたたきながらケースからリング ギヤを取りはずす。

注

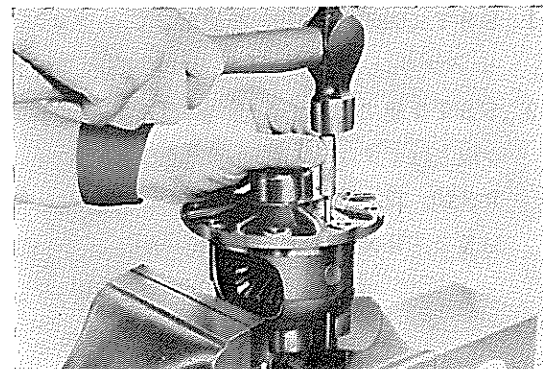
切り離す前にポンチ等でケースとリング ギヤに合わせマークを打ち、組み付け位置を異ならないようにすること。



第10-25図 リング ギヤ取りはずし

B8741

- 16 ストレート ピン(ピニオン シャフト セット用)をリング ギヤ取り付け面側へ打ち出す。
 17 ピニオン シャフトを抜き、ディファレンシャル ピニオン、ディファレンシャル サイド ギヤおよび各スラスト ワツシヤを取りはずす。



第10-26図 ストレート ピン打ち出し

V3445

点 検

各車共通編 第11章「リヤ アクスル、ディファレンシャル」各部品の点検の項参照。

組み付け、調整

- 1 ディファレンシャル ケースにサイド ギヤ、ピニオン、スラスト ワツシヤを組み付け、ピニオン シャフトをそう入する。

注

サイド ギヤ スラスト ワツシヤのみぞをサイド ギヤ側に向ける。

- 2 サイド ギヤのバツクラツシユを測定し、基準値を越えている場合は第10-2表によりスラスト ワツシヤを選択して調整する。

バツクラツシユ基準値 0.05~0.20mm

第10-2表 サイド ギヤ スラスト ワツシャ

車両型式	RX10, 12, 20, 22系		MX系, RX16V, 26, 28系	
種類	品番	厚さ(mm)	品番	厚さ(mm)
No. 1	41361-22020	0.96~1.04	41361-30020	1.40~1.50
No. 2	41361-22030	1.06~1.14	41362-30020	1.50~1.60
No. 3	41361-22040	1.16~1.24	41363-30010	1.60~1.70
No. 4	—	—	41364-30010	1.70~1.80

3 ピニオン シャフトの穴とケースの穴を合わせ、ストレート ピンをリング ギヤ取り付け面側から打ち込みかしめる。

4 SSTを使用して、デフアレンシャル サイド ベアリングをケースに圧入する。
RX10, 12, 20, 22系……〔09608-20010〕
MX系, RX16V, 26, 28系……〔09505-20010〕

5 デフアレンシャル ケースにリング ギヤを組み付ける。

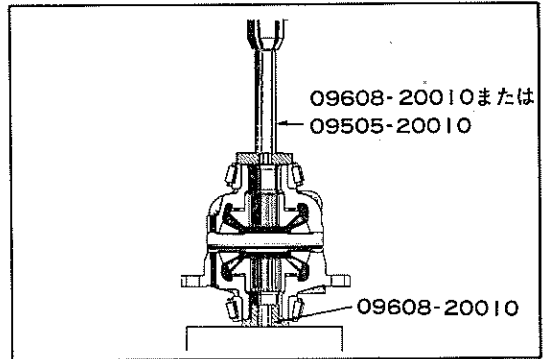
(1) 取り付け前にリング ギヤ取り付け面の振れを点検しておく。

振れ限度 RX10, 12, 20, 22系 0.05mm
MX系, RX16V, 26, 28系 0.07mm

(2) リング ギヤを 90~110°C に加熱する。
(3) リング ギヤを手早くケースにはめ込む。

注

リング ギヤとケースの合わせ面およびかん合部に油を付着させないこと。



第10-27図 サイド ベアリング圧入 G9104

(4) ロック プレートを通じてボルトを締め付ける。

締め付けトルク 920~1050kg-cm

注

対称に締め付けること。

(5) リング ギヤの振れを点検する。

振れ限度 RX10, 12, 20, 22系 0.05mm
MX系, RX16V, 26, 28系 0.07mm

(6) ロック プレートでボルトの回り止めをする。

6 SSTとプレスを使用して、ベアリング カップ (ドライブ ピニオン フロントおよびリヤ用) をデフアレンシャル キヤリヤに圧入する。

RX10, 12, 20, 22系フロント側のみ ……〔09608-20010〕
その他 ……〔09608-30010〕



第10-28図 ベアリング カップ圧入 V3454

7 ドライブ ピニオン突き出し量の調整

〔マスタ ゲージ使用による調整〕

使用 SST

R X 10, 12, 20, 22系……〔09530-20020〕

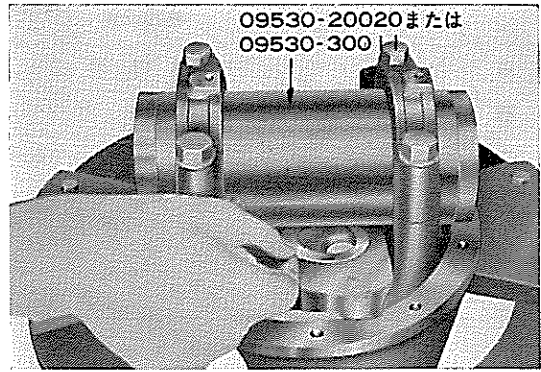
MX系, R X 16V, 26, 28系……

〔09530-30011〕

- (1) SSTのベース ロッドにドライブ ピニオン リヤ ベアリングを入れ、ベース ロッド ヘッドを組み付けて キャリヤ後部から入れる。
- (2) キャリヤ前部からドライブ ピニオン フロント ベアリングを入れ、SSTのカラー、プレロード フランジ、ナットの順で組み付ける。

プレロード (回転中)

	[RX10, 12, 20, 22系]	[MX系, RX16V, 26, 28系]
ベアリング新品	2.4~4.4kg	3.2~4.4kg
ベアリング再使用	0.54~2.0kg	0.7~2.0kg



第10-29図 プレート ワツシャ選択

V3457

注

スペーサがはいつていないのでナットを軽く締め付けければ規定のプレロードが得られる。

- (3) マスタ ゲージをベアリング キャップで締め付ける。
- (4) マスタ ゲージ 下側のすき間にあうプレート ワツシャを 第10-3, -4表から選択する。

注

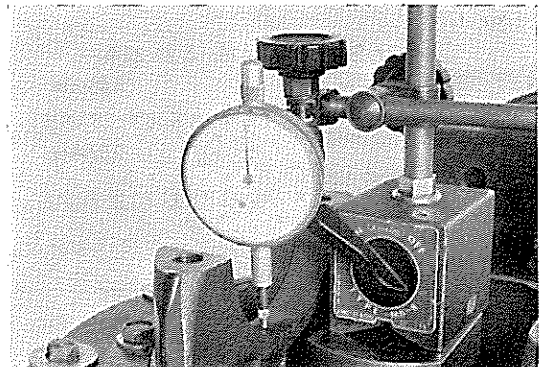
- 1 R X 10, 12, 20, 22系は第10-3表から選択する。
- 2 MX系, R X 16V, 26, 28系は第10-4表から選択する。

〔ダイヤル ゲージ使用による調整〕

- (1) 〔マスタ ゲージ使用による調整〕の(1)および(2)の作業を行なう。
- (2) ベース ロッド ヘッドの上にダイヤルゲージを置き、デイファレンシヤル キャリヤのサイド ベアリング取り付け部の最も低い位置を計り、指針を0に合わせる。
- (3) ダイヤルゲージを取りはずして定盤の上に置きスピンドルの下にプレート ワツシャを入れて、指針が0になるものを第10-3, -4表から選択する。

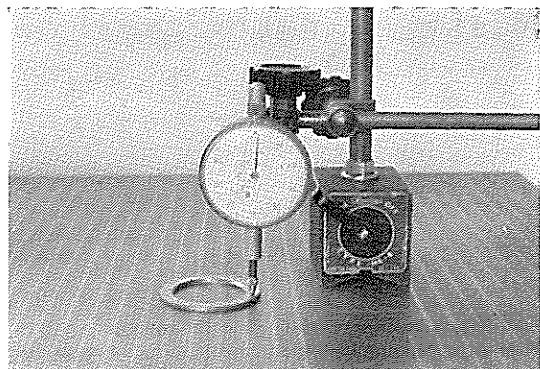
注

- 1 R X 10, 12, 20, 22系は第10-3表から選択する。
- 2 MX系, R X 16V, 26, 28系は第10-4表から選択する。



第10-30図 プレート ワツシャ選択

B8755



第10-31図 プレート ワツシャ選択

B8756

第10-3表 ドライブ ピニオン アジャスト用プレート
ワツシヤ (RX10, 12, 20, 22系)

品番	種類	厚さ (mm)
90201-35396	No. 1	2.35~2.37
90201-35397	No. 2	2.38~2.40
90201-35398	No. 3	2.41~2.43
90201-35399	No. 4	2.44~2.46
90201-35400	No. 5	2.47~2.49
90201-35401	No. 6	2.50~2.52
90201-35402	No. 7	2.53~2.55
90201-35403	No. 8	2.56~2.58
90201-35404	No. 9	2.59~2.61

第10-4表 ドライブ ピニオン アジャスト用プレート
ワツシヤ (MX系, RX16V, 26, 28系)

品番	種類	厚さ (mm)
90209-35022	No. 1	2.99~3.01
90209-35023	No. 2	3.02~3.04
90209-35024	No. 3	3.05~3.07
90209-35025	No. 4	3.08~3.10
90209-35026	No. 5	3.11~3.13
90209-35027	No. 6	3.14~3.16
90209-35028	No. 7	3.17~3.19
90209-35029	No. 8	3.20~3.22
90209-35030	No. 9	3.23~3.25
90209-35058	No. 10	3.26~3.28

- 8 下記の式で算出される値(T)に最も近い厚さのプレート ワツシヤを第10-3, -4表から選択する。

$$T = \left[\begin{array}{l} \text{7項で選定したプレ} \\ \text{ートワツシヤの厚} \\ \text{さ} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{リングギヤアンド} \\ \text{ドライブピニオン} \\ \text{キットの寸法} \end{array} \right]$$

注

- リングギヤアンドドライブピニオンキットの組み合わせ寸法は、ドライブピニオン頭部に記入されている。(第10-32図)
- リングギヤアンドドライブピニオンキットの組み合わせ寸法値の分類。
-0.08~0~+0.08
- 符号のものは7項で選定したプレートワツシヤの厚さにキットの寸法値を加える。また、+符号のものはキットの寸法値を引く。
- ドライブピニオンに組み合わせ寸法値がない場合には、リングギヤアンドドライブピニオンキット寸法の値は→0とする。

- 9 ドライブピニオンに8項で選定したプレートワツシヤを入れ、SST〔09506-30010〕を介してプレスで圧入する。

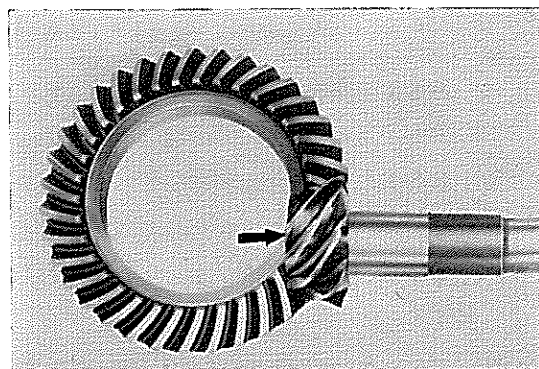
注

プレートワツシヤは内周に面取りしてある方がギヤ側である。

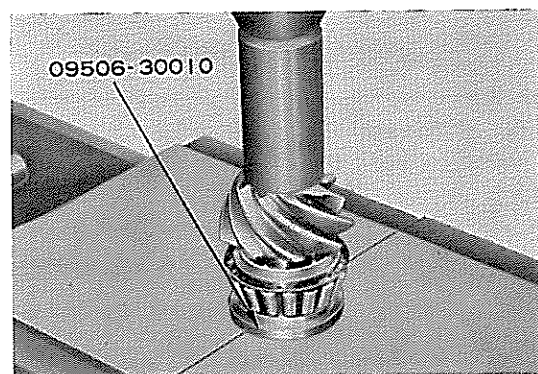
- 10 ベアリング(ドライブピニオン用)のプレロードを調整する。

- (1) スペーサの自由長を測定する。

使用限度	RX10, 12, 20, 22系	54mm
	MX系, RX16V, 26, 28系	61mm



第10-32図 リングギヤアンド
ドライブピニオン V3447



第10-33図 ベアリング組み付け V3424

限度以下の場合には新品と交換する。

- (2) ドライブピニオンにスペーサを組み付けキャリヤ後部から入れる。

注

スペーサを再使用する場合はスペーサの小端側にシム(90564-30032厚さ0.3mm)を1枚追加する。

- (3) キャリヤ前部からベアリングおよびオイルスリンガを組み込む。

- (4) SSTを使用してオイル シールを組み付ける。

R X 10, 12, 20, 22系…〔09554-22010〕

MX系, R X 16 V, 26, 28系…

〔09554-30011〕

注

1 オイル シール リップ部に MP グリースを塗布する。

2 オイル シール打ち込み寸法

R X 10, 12, 20, 22系

キャリヤ端面より 4 mm

MX系, R X 16 V, 26, 28系

キャリヤ端面より 1 mm

- (5) SST〔09557-22010〕先端のネジ部をドライブ ピニオンのネジ部に締め込む。

- (6) SSTのボルト(1)を固定してナット部(2)を締め込み、ベアリングおよびフランジを圧入し、SSTをフランジから取りはずす。

- (7) プレート ワッシャを入れ、コンパニオン フランジをSST〔09330-00020〕で保持しながらナットを締め付ける。

締め付けトルク 1100kg-cm以上

注

ナットは新品を使用し、ナットのネジ部および当たり面にギャ オイルまたはシャシ グリースを塗布する。

- (8) コンパニオン フランジにSST〔09530-20020〕または〔09530-30011〕のプレロード フランジを取り付け、プレロードを測定する。

プレロード (回転中)

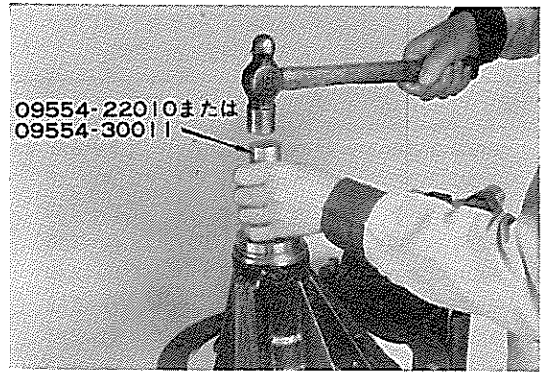
〔RX10, 12, 20, 22系〕 〔MX系, RX16V, 26, 28系〕

ベアリング新品 2.4~4.4kg 3.2~4.4kg

ベアリング再使用 0.54~2.0kg 0.7~2.0kg

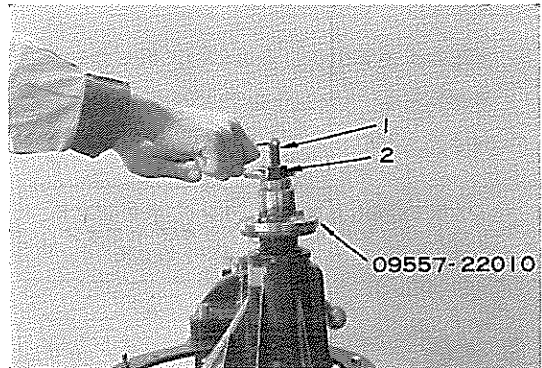
注

ベアリングをなじませるため、正転、逆転を数度行なった後に測定すること。



第10-34図 オイル シール組み付け

B8758



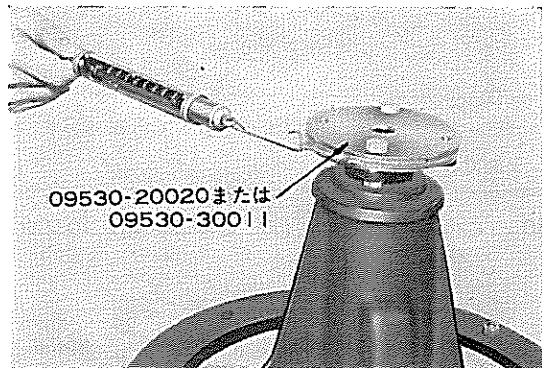
第10-35図 コンパニオン フランジ組み付け

B9842



第10-36図 ナット締め付け

B9843



第10-37図 プレロード測定

V3463

- (9) プレロードが不足している場合はナットを増し締めする。ただし締め付けトルクが 2000kg-cm を超える場合は一度ナットをゆるめて再締め付けをする。

また 1100kg-cm 以下の締め付けトルクでプレロードが超過している場合は再分解してシムを追加し、適正な締め付けトルクとプレロードが得られるようにする。

- 11 デイファレンシヤル ケース を キャリヤに組み付ける。

- 12 サイド ベアリングのプレロードを調整する。軸方向の遊び 0 から 1.0~1.5ノッチ締め込む。

総合プレロード

	[RX10, 12, 20, 22系]	[MX系, RX16V, 26, 28系]
ベアリング新品	ドライブ ピニオン プレロード +(0.6~1.0)kg	ドライブ ピニオン プレロード +(0.8~1.2)kg
ベアリング再使用	ドライブ ピニオン プレロード +(0.2~0.4)kg	ドライブ ピニオン プレロード +(0.2~0.4)kg

- 13 ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラツシュを調整する。

バックラツシュ 0.13~0.18mm

- 14 ベアリング キャップを規定のトルクで締め付ける。

締め付けトルク 700~900kg-cm

- 15 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり

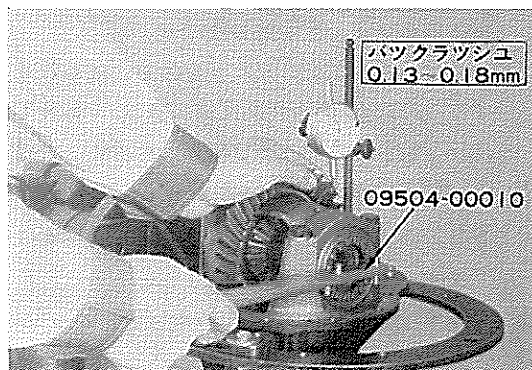
注

左右のベアリング カップの組み付けをまちがえないこと。

- (1) ベアリングにカップを組み付け、バックラツシュが少しある位置でキャリヤに取り付け、アジャステイング ナットを組み付ける。
- (2) ベアリング キャップをアジャステイング ナットのネジ部に合わせて置き、ボルトで仮締めする。

注

分解時の合わせマークを確認すること。



第10-38図 バックラツシュ調整

B9926

を点検する。

- 16 アジャステイング ナット ロック プレートを取り付ける。
- 17 ドライブ ピニオンのナットをかしめる。
- 18 デイファレンシヤル キャリヤ アツセンブリをワーク スタンドから取りはずす。

取り付け

取りはずし作業の逆に行なう。

注

- 1 ハウジングにキャリヤを取り付けるときはガスケット両面にシール パツキン No.5を塗布して締め付ける。
締め付けトルク 250~380kg-cm
- 2 リヤ アクスル シャフトをそう入する際、オイルシールを傷付けないこと、またオイル シール リツプ部にはキャツスル MP グリースを塗布する。
- 3 リヤ アクスル シャフト ベアリング リテーナおよびリテーナ ガスケットの上下 (オイル ホール

用の切り欠きがある方を下にする) を間違えないように注意する。

- 4 バツキング プレート セット ナットはセルフ ロック ナットのため必ず新品を使用する。
- 5 ハウジング内の潤滑油はハイポイド ギヤ オイルを使用する。
種類 キャツスル ハイポイド ギヤ オイル S
SAE 90
油量 1.2ℓ

車上でオイル シール交換

分解

- 1 パーキング ブレーキを引く。
- 2 プロペラ シャフトをコンパニオン フランジから切り離す。
- 3 ドライブ ピニオンおよびリング ギヤの総合プレロード（起動）を測定し記録しておく。

注

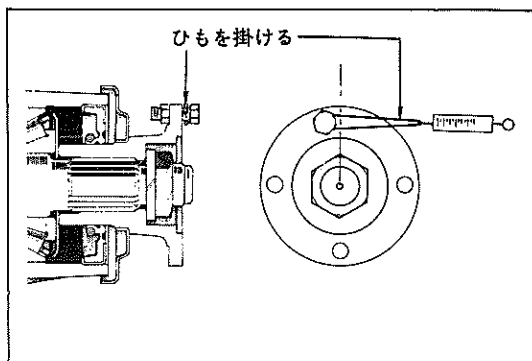
ダイアレンシャル ピニオンのバックラツシュとリヤ アクスル シャフト スプラインの遊びの範囲でフランジにボルトを取り付け、ひもを掛けて測定する。

- 4 ナットのかしめめるとき、S S T〔09330-00020〕を使用してナットを取りはずす。
- 5 S S T〔09557-22010〕先端のネジ部をドライブ ピニオンのネジ部に締め込み、S S Tのプレート部をフランジに4本のボルトで固定する。
- 6 S S Tのボルトを固定し、ナット部をゆるめてフランジを取りはずす。
- 7 S S T〔09308-10010〕を使用してオイル シールを取りはずす。
- 8 オイル スリンガを取りはずす。
- 9 S S T〔09556-22010〕のツメをベアリング インナ レースの端面に掛け、3本のボルトを平均に締め込む。
- 10 S S T中心のボルト(太)を締め込み、ベアリングを取りはずす。
- 11 スペーサを取りはずし、スペーサの自由長を測定する。

使用限度 R X 10, 12, 20, 22系 54mm
 M X 系, R X 16 V, 26, 28系 61mm

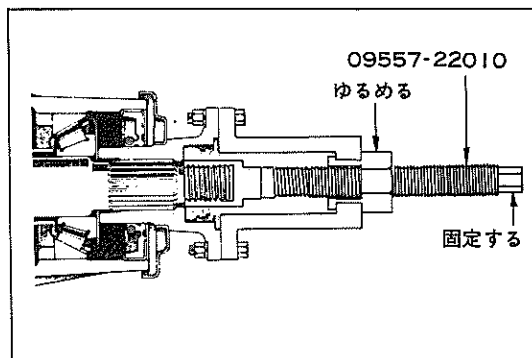
組み付け

- 1 スペーサを組み付ける。
 スペーサ 新品 シムなし
 再使用 シム 1枚追加使用
- 2 ベアリング、オイル スリンガを組み込む。
- 3 S S Tを使用してオイル シールを打ち込む。
 R X 10, 12, 20, 22系 〔09554-22010〕
 M X 系, R X 16 V, 26, 28系 〔09554-30011〕



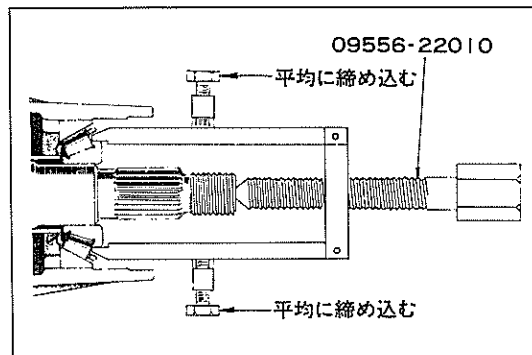
第10-39図 プレロード測定

G8678



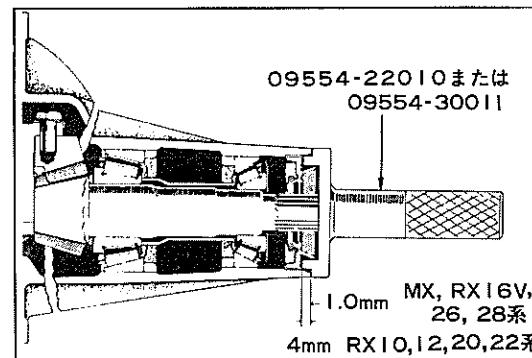
第10-40図 コンパニオン フランジ取りはずし

G8679



第10-41図 フロント ベアリング取りはずし

G8680



第10-42図 オイル シール組み付け

S1074

4 S S T〔09557-22010〕を使用してコンパニオン フランジを組み付ける。

- (1) S S T 先端のネジ部をドライブ ピニオンのネジ部に締め込む。
- (2) S S T のボルトを固定してナット部を締め込み、ベアリングおよびフランジを圧入し、S S T をフランジから取りはずす。

5 S S T〔09330-00020〕を使用し、ナットを締め付ける。

締め付けトルク 1100kg-cm

注

ナットのネジ部および当たり面にギヤ オイルまたはシャシ グリースを塗布する。

6 ドライブ ピニオンおよびリング ギヤの総合プレロード（起動）を測定する。

注

ベアリングをなじませるためフランジを正転、逆転を数度行なった後に測定すること。

プレロード（起動）

分解前プレロード+0.7~0.9kg

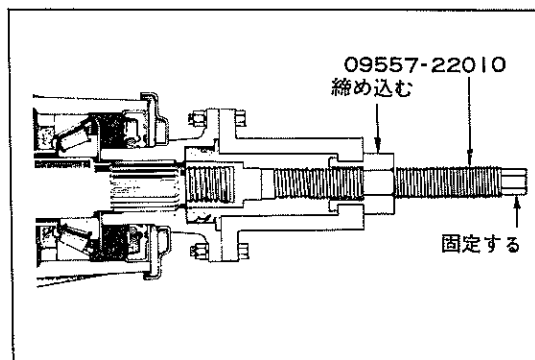
7 プレロードが不足している場合は、100kg-cm 増し締めするごとにプレロードの測定を行ない規定プレロードになるまで締め込む。

注

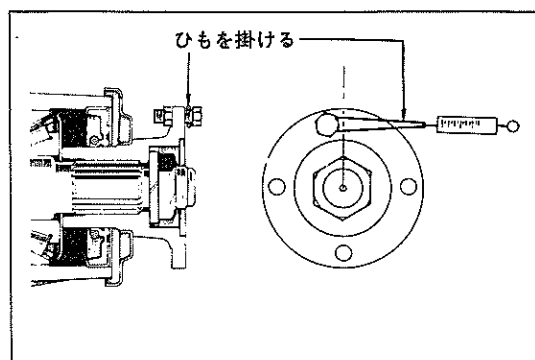
締め付けトルクが2000kg-cm を超える場合は一度ナットをゆるめ再締め付けを行なう。

8 ナットをかしめ、プロペラ シャフトを取り付ける。

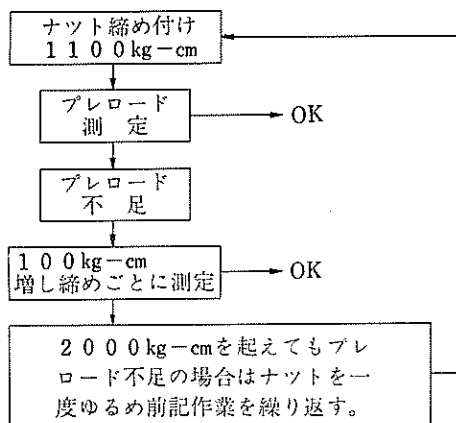
9 オイル量を点検する。



第10-43図 コンパニオン フランジ組み付け G8679



第10-44図 プレロード測定 G8678



MEMO